

23日 火曜

創世記

12:10 その地に飢饉が起つたので、アブラムは、エジプトにしばらく滞在するために下つて行った。その地の飢饉が激しかったからである。

12:11 彼がエジプトに近づいて、その地に入つて行こうとしたとき、妻のサライに言つた。「聞いてほしい。私には、あなたが見目麗しい女だということがよく分かっている。

12:12 エジプト人があなたを見るようになると、『この女は彼の妻だ』と言って、私を殺し、あなたを生かしておくだろう。

12:13 私の妹だと言ってほしい。そうすれば、あなたのゆえに事がうまく運び、あなたのおかげで私は生き延びられるだろう。」

12:14 アブラムがエジプトにやつて来たとき、エジプト人はサライを見て、非常に美しいと思った。

12:15 ファラオの高官たちが彼女を見て、ファラオに彼女を薦めたので、サライはファラオの宮廷に召し入れられた。

12:16 アブラムにとって、物事は彼女のゆえにうまく運んだ。それで彼は、羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男奴隸と女奴隸、雌ろば、らくだを所有するようになった。

12:17 しかし、【主】はアブラムの妻サライのことで、ファラオとその宮廷を大きなわざいで打たれた。

12:18 そこで、ファラオはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私に何ということをしたのか。彼女があなたの妻であることを、なぜ私に告げなかつたのか。」

12:19 なぜ、『私の妹です』と言つたのか。



聖書の記述

だから、私は彼女を自分の妻として召し入れたのだ。さあ今、あなたの妻を連れて、立ち去るがよい。」

12:20 ファラオがアブラムについて家来に命じたので、彼らは彼を、妻と、所有するすべてのものと一緒に送り出した。

信仰の父アブラム（後にアブラハム）ではあっても、この世の現実の中に生きなければなりませんでした。激しいききんがあったのです。彼は主に導かれた土地の人々とその苦しみを共にするという選択肢もあったのですが、一族と使用人たちのことへの責任感からか、場所を変えることを選びました。

また信仰のために良い土地柄を選ぶ必要もありましたが、現実的にはしょうがなくエジプトを選びました。そして主の守りを固く信じて嘘偽りのない道を選ぶこともできましたが、妻を守るために嘘を言ったわけです。

彼を不信仰と一言で言ってしまうのは簡単ですが、彼の側に立てば、苦渋の選択をせざるを得なかつたとも言えるでしょうし、また私たちも同じような立場に立たされることもあるのではないかでしょうか。

主はアブラムを咎めもせずに守ってくださいました。同じように主は弱い信仰の者をも守ってくださいます。ならば私たちも弱い今まで良いのでしょうか。主はこの後、アブラムを数々の試練に合わせられます。アブラムは成長し、強められ、信仰の父になったのです。

信仰者の人生にはすばらしい主の使命があります。それは「やらなくても良い」という程度のいい加減なものではなく、必須科目です。そしてそれは最大の祝福であり栄誉なのです。

そのためには成長し、強くなる必要がありますから、試練は当然あるのです。ではまだ弱い信仰のときはどうなるのでしょうか。神は丁度良い訓練を与えてくださるのです。アブラムの

ケースのように。しかもちゃんと守ってくださいつつ。

使命を受け止め、成長をめざし、前進しつつ、主からの祝福と栄誉を受け取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

